

甲斐市立双葉西小学校 学校関係者評価書

令和5年2月22日（水）

甲斐市立双葉西小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和5年2月13日（月）～20日（月）＊学校関係者評価アンケート回収

会場：大雪のため参集せず，アンケート回収

参加者：（学校関係者評価委員）

小田切千尋・石原 茂雄・花田 弘樹・箭本 昌人・斉藤さや香

山田 幸雄・大柴英理香・日永 龍彦・中島 雅子・前村はぎ映

阿部 智子・藤田 幸江・堀内 雅美・豊田 泰長・金丸 徹

佐藤 耕太

（学校側）

窪田 正幸（校長）・小田切真喜（教頭）・三井 啓郎（教務主任）

山本真由美（CSコーディネーター）・中嶋 銀河（事務）

I 学校側から提案された内容

〈教職員自己評価書について〉

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 まとめ

II 協議された主な内容

1 全体の概要について

（1）教職員自己評価について

- ほとんどの設問で肯定的評価が90%以上であり，昨年度に引き続き，教職員自己評価が良好であること。

（2）小学生アンケートについて

- 「学校は楽しいですか」の肯定意見が約96%となり，多くの児童が学校生活に満足している状況であること。

（3）保護者アンケートについて

- 「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見が約92%以上であり，好意的な評価であること。

2 学校教育目標・学校経営について

- それぞれの教職員の育成指標にあった適切な目標を立てさせ、研修等を行い、P D C Aサイクルを活用しながら効果的で効率的な教育活動を目指すこと。
- 適材適所、組織的な対応、O J Tの活用を通して、教職員の資質・能力の向上を図ること。

3 学校運営について

- 校務支援システムの有効的な活用に取り組んでいくこと。
- 「定時退勤日」の設定や学校行事の見直し、教材教具等の引き継ぎなどを通して、多忙化解消への取組を推進していくこと。
- 特別支援教育に関する研修の実施や定期的な校内支援委員会の開催、支援員等の効果的な配置などを通して、十分な体制で特別支援教育を行うこと。

4 学習指導について

- 適切な目標設定と校内研究会等の研修の充実、O J T等を通して教職員一人一人の資質・能力の向上を図ること。
- 本校の強みである教職員同士の連携や協働体制を今後も強く押し進め、教職員集団がチームとなって教育活動に取り組んでいくこと。

5 生徒指導について

- 児童とのコミュニケーションをより深め、保護者・地域との連携をとる中で児童の問題行動の早期発見・早期対応に努めるようにしていくこと。

6 地域との連携について

- 引き続き学校運営協議会を中心として、地域の人的・物的資源を学校教育に取り入れながら地域とともに学び、ともに育つ学校を目指していくこと。

7 学校の特色について

- 校長の指導の下、全教職員で共通認識をとりながら学校の特色を生かした教育活動に取り組んでいくこと。

8 創甲斐教育について

- 「創甲斐教育」を推進し、「確かな学力」や「生きる力」を育むため、充実した研修等に取り組むなどしながら、全教職員の資質・能力の向上に努めていくこと。

〈学校関係者評価書〉

1 全体評価

- 「学校が楽しい」「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見が9割を超えている。このことは先生方が子供たちにとっての楽しい学校づくりに取り組んでいる成果だと考える。
- 否定的な意見の子供たちにも目を向け、引き続き子供たちに寄り添った支援を行ってほしい。

2 観点ごとの評価結果

I 学校教育目標・学校経営について

- 全教職員が学校教育目標を意識した学校経営がなされており、一丸となって取り組んできている成果が表れていると考える。
- 教員の業務負担の軽減は常に問題視されている。より適切な校務分掌の割り振りは難しいことではあるが、改善策を進めてほしい。

II 学校運営について

- 肯定的意見が多かったことはよいと思う。教職員のチーム力が子供たちの健やかな成長につながると考えられるので、今後とも高めてもらいたい。
- 「定時退勤日」の取り組みは有効である。
- 働き方改革の部分では課題が見られる。どの学校、どの職場においても避けては通れない問題である。意識改革はもちろん、好事例の共有等に引き続き取り組んでもらいたい。
- 働き方改革については教職員の意識改革も必要であるが、全体の仕事を減らしていけないとなかなか現実的なものにはならない。

III 学習指導について

- 特にICTを効果的に活用した授業の実践に関しては、昨年度から積極的に取り組んできていると感じる。先進校等の事例なども参考にしながら、進めていってほしい。
- 先生方は本当によく頑張っていると感じる。これからも自信を持ちながら取り組んでいってほしいと思う。

IV 生徒指導について

- 教職員が児童としっかりコミュニケーションをとっている様子がよく分かる結果となっていて、非常によいと思う。先生方に共通理解があることは、児童、保護者ともにとても安心できることだと思う。
- 課題にも示されているが、問題行動の早期発見・早期対応について、全職員で共通認識を持ち、徹底してもらいたい。

V 地域との連携について

- コミュニティスクールとして、学校と地域が協力して子供たちを育てる土台がしっかり構築されており、すばらしいと感じる。今後も地域の力を取り入れる中で、充実した教育活動を進めていってほしい。

VI 学校の特色について

- 児童自ら学校を創り上げようとしている成果が現れていると感じる。引き続き児童の自己肯定感を高め、特色ある学校づくりをお願いしたい。
- これからアフターコロナの時代に入っていくことと思う。学習の成果を保護者や地域の方に見てもらえる場を設けていけば、子供たちの意欲もさらにわくと思う。
- 双葉西小学校はコミュニティスクールであるので、学校応援団等の活動を肌で感じて、奉仕やボランティアなどに自分から進んで参加する気持ちを子供たちに持ってもらいたい。

VII 創甲斐教育について

- 非常によい結果が出ていると感じる。日々の授業の充実が学校教育の基本だと思う。今後も意欲的に取り組んでももらいたい。

(その他)

- 令和5年度はアフターコロナの活動を行っていく大事な1年になると感じる。子供たちの失われた時間や思い出もあると思うので、今年度以上に学校・家庭・地域で連携し合い、子供たちの健全な育成に取り組んでいきたい。
- コミュニティスクールが持続可能なものとなるよう、世代交代や会員の募集等において、さまざまな工夫が必要である。
- 目指す学校像、教育方針などに近づけるための先生方の努力やご苦勞がよくわかる自己評価書であった。

3 今後の課題として確認されたこと

- P D C Aサイクルを生かした教育活動
- 機能的な校務分掌の働き
- 校務支援システムの活用
- 働き方改革への意識
- 機能的な特別支援体制
- 問題行動の早期発見・早期対応
- 地域の方と学校の連絡調整の強化

※特記事項

- 特になし

記載責任者：甲斐市立双葉西小学校 学校関係者評価委員 小田切千尋 印